

令和 2 年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査計画

1 目的

都内における動物由来感染症の動態を把握するため、実態調査等を実施する。また、その結果を都民や動物取扱業者に還元することにより、動物由来感染症の発生防止を図り、都民の安全確保、並びに、飼い主・動物取扱業者の適正な動物飼養管理等の一層の充実に資する。

2 調査項目

(1) 犬と猫の寄生虫調査

ア 調査理由

犬・猫の体腔内には、回虫、条虫、鞭虫など様々な寄生虫が寄生している。多くは人獣共通の寄生虫であり、人に重篤な症状を起こすものもある。

令和 2 年度も保有状況の把握のために引き続き調査を行なう。

イ 調査規模

犬 10 頭、猫 100 頭

ウ 検査方法

糞便検査と剖検による心臓内及び消化管内の寄生虫の調査

エ 検査機関

動物愛護相談センター 城南島出張所

(2) 犬と猫の SFTS (重症熱性血小板減少症候群) ウイルス遺伝子モニタリング調査

ア 調査理由

平成 29 年に SFTS 患者が飼養している犬・猫の血液や糞便などからウイルスが検出された事例があった。その後も西日本で、発症動物との濃厚接触や咬傷により、ヒトが感染する事例が発生している。このことから、体調不良の動物と接する飼い主や動物医療従事者、動物取扱事業者は、動物の取扱い時には注意が必要である。

東京都においては収容した犬猫を対象として、平成 28 年度に抗 SFTS 抗体保有状況を、平成 30、31 年度は SFTS ウイルス遺伝子モニタリング調査をしたところ、調査した全ての検体が陰性であった。現在、都内の犬猫で発見されたとの報告はないが、発生する可能性は十分考えられる。令和 2 年度も都内における SFTS の感染リスクの把握を目的とし、収容した犬猫 (負傷動物も含む) を対象にして SFTS ウイルス遺伝子モニタリング調査を継続する。

イ 検体及び調査規模

センターに収容、管理されている犬、猫の血液及び唾液各 30 検体程度

ウ 検査方法

リアルタイム PCR 法によるウイルス遺伝子の検出

エ 検査機関

健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科

動物愛護相談センター 城南島出張所

(3) 狂犬病検査のための安全で簡便な検体採取方法の検討

狂犬病検査のための検体採取方法について、国立感染症研究所獣医科学部第二室及び狂犬病臨床研究会の助言・指導を受けながら、安全かつ簡便な方法の検討を行う。

3 実施期間

通年

4 調査結果

東京都動物由来感染症検討会において検討するとともに、詳細については動物愛護相談センターが開催する調査研究発表会で報告する。また、内容を精査して公衆衛生獣医師協議会研究発表会や獣医学会等への外部発表も行う。

また、動物愛護相談センターで実施する講習会等において調査結果や予防法等について普及啓発を行うとともに、動物取扱業監視時の業者への啓発材料としても活用する。